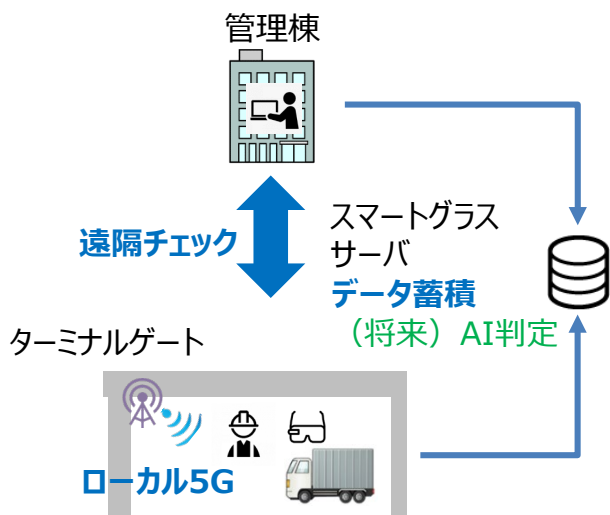


代表機関	西日本電信電話株式会社	分野	空港・港湾
実証地域	大阪府大阪市 (夢洲コンテナターミナル)	コンソーシアム	西日本電信電話(株)、夢洲コンテナターミナル(株)、 三菱ロジスネクスト(株)、大阪市
実証概要	<p>国際海上物流において重要な役割を担うコンテナターミナルでは、大型コンテナ船の寄港の増加による荷役時間の長期化や、コンテナターミナルのゲート前渋滞の深刻化といった課題が存在。</p> <p>➤ ローカル5Gを活用した、コンテナダメージチェックの遠隔化・デジタル化、将来的なRTG*等の遠隔操作を見据えた技術検証、外来車両の待機列自動判別に関する実証を実施。</p> <p>➤ 港湾業務の業務効率化・生産性向上、周辺の渋滞緩和を実現。 <small>*Rubber Tired Gantry craneの略、タイヤ式門型クレーン</small></p>		
技術実証	<p>➤ 周辺に開放地・郊外地が存在する港湾における、水面・コンテナ等を考慮した電波伝搬モデルの精緻化や、電波反射板によるコンテナ裏などの電波の死角に対するエリア化、同期局と準同期局の共用検討を実施。</p> <p>➤ 周波数：4.8-4.9GHz帯（100MHz） 構成：SA方式 利用環境：屋外</p>		

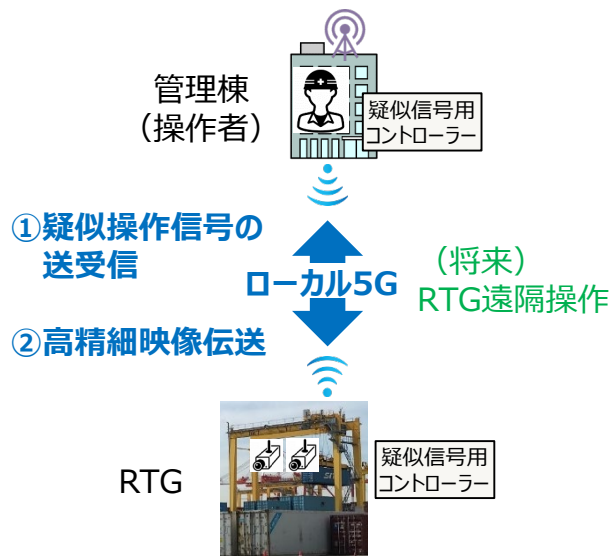
スマートグラスを活用したコンテナダメージチェックの遠隔化・デジタル化

- ✓ 管理棟からの駆け付け時間削減
- ✓ AI判定に向けたダメージ画像の蓄積



RTG等の遠隔操作を見据えた操作信号と4Kカメラ高精細映像伝送

- ✓ 危険作業の遠隔化による作業環境改善



4Kカメラを活用した外来トレーラーの車両情報伝送と渋滞の見える化

- ✓ 周辺渋滞の解消や積荷時間削減

